縞帳
自江戸末期
機場手板
三百余種
至明治中期

むかしもめん

縞帳

自江戸末期

機場手板

三百余種

至明治中期

懐古裂研究會編

袖珍版〔綴装〕二百帖限定

むかしもめん

縞帳

自江戸末期 至明治中期

機場手板 三百余種

頒布処 京都書院

「しま帳のこと」

近江国多賀之大社道
高宮布島商古老聞書

むかし木綿の縞（島）、〝かすり（飛白）の類。そのかみにては、為政の者の奢侈禁令の掟などありて〝絹〟〝錦〟などのけ置きて、巷になごみ強いたるものなれど、その素材、手なぶり身ごろの安意に加え、またなく映えたる〝糸、色、織〟と、ほどよきさばきの妙の故にや、得もいはれざる百々余の趣。野暮の果にこそ、また購い難き安堵の憶こそありとてか、風に、木に、土に、草によりて育まれたる〝衆〟の装いなれば、何をかの衒とてみえず、いさゝかのそり返りたる身振りまたおくびだにあらず、唯、明け暮れのたつきの中に生れ、伝わり時のつゐの間にその〝用〟を重ね、今日の時にぞ及びたるなり。

いま、はた目にふと思いいたるは、世に賢人、能者ひしめき重りて、雑宝の如く多夥の書をしたゝむると雖、所詮は先達、験者の実を推説、選択、取捨の果てを綴りて麗美にそれその所見と号し、多弁を幻じて庶民を煙中に彷徨せ

しむる珍事少しとせず。これまた古るき世より操り返さるゝ輪廻世法の変らざる推移なれど、なを送りてゆく〳〵何とて絶えざるべし。

さて〳〵〝しま帳、綴〟の類。戦前、嘗の頃にては、〝機場縞(島)帳〟また縞(島)重宝〟等とて、諸国の農山村、漁港はもとより、つねの町家の諸所にても、何気なくとも散見なし得たる、身近きものの一つにて、それぞれの家の伝承ともいうべき〝織り縞〟の端し裂、あるはまた他国より持ち来りし、変り縞の一片等々、何れとて、その頃の日日の暮しの〝用い〟の立居のなかにて、織り、眺め、なお次代への送承となしたる、生活衣料のまた無き証の一端と知らされ、おもしろさ深く憶い至るなれど、この種のもの、戦後は絶えて世人の視野よりそのすがた消し去り、それへの巡り会ひも得難きふうに聞えけり。このの頃来、巷間に人ありて、この種のものを再刊復元すと聞く。何をか良否の言を要せんや、たゞに良たるも、否たるも、それ先人の一法として眺め、拝し、何とより、理にては無く。実によりていかほどにても、その目を開き、温故の情を養うに越したるは、またなきことと知るべきなり。

その年　　　　　　（吉本　嘉門・懐述）

裂衣集

丹波
江戸末

むかしきれ
縞帳

丹波
江戸末期

縞帳

丹波
江戸末期

むかしきれ
縞帳
むく糸

河内
明治初期

Indira Gandhi National
Centre for the Arts

むかしきれ

縞帳

山城
明治初期

むかしきれ
縞帳

丹波
明治初期

むかしきれ
縞帳

丹波
明治初期

縞帳

河内
明治初期

むかしきれ

縞帳

大和
明治初期

むかしきれ

縞

帳

河内

むかしきれ
縞帳
十

丹波
明治中期

むかしきれ

縞

帳

山城
江戸末期

千筋　萬筋　みぢん

山城
江戸末期

縞帳
千筋
萬筋

山城
明治初期

千筋　萬筋

美濃
明治中期

縞帳

千筋

近江
明治初期

むかしきれ

縞帳

紀伊
明治初期

縞帳

丹波
明治中期

縞帳

河内
明治初期

Indira Gandhi National
Centre for the Arts

縞帳

十三

河内
明治初期

むかしきれ

縞

帳

丹波
明治中期

縞帳

やぐ高

丹波
明治初期

縞帳

美濃
明治中期

むかし
きれ

縞

帳

廿四

近江
明治初期

むかしきれ

縞帳

山城
明治初期

絹まぜ

山城
明治中期

縞帳

絹まぜ

山城
蓜
明治中期

縞帳

絹まぜ

山城
明治中期

絹まぜ

若狭
明治初期

麻まぜ

近江
明治中期

むかしもめん
縞帳

山城
明治中期

とうざん様

山城
明治初期

縞帳

とうざん様

美濃
明治中期

縞帳

近江
明治中期

とうざん様

山城
明治中期

むかしきれ

縞帳

河内
明治中期

縞帳

あつし

あつし

あつし

山城
明治中期

縞帳

美濃
明治中期

むかしきれ

縞帳

（尾張）
明治中期

縞帳

河内
明治中期

縞帳

山城
明治中期

とうざん様

丹後
明治中期

縞帳

とうざん様

河内
明治中期

むかしきれ

縞帳

河内
明治中期

縞帳

大和
明治中期

むかしきれ

縞帳

卌二

美濃
明治中期

縞帳

やぐ縞

丹後
明治中期

Indira Gandhi National
Centre for the Arts

縞帳

やぐ縞

伊勢
明治中期

縞帳

近江
明治末期

むかしきれ

縞帳

但馬
範
明治中期

縞帳

―むかしもめん―

縞帳

袖珍版【綴装】
貳百帖を限りて

◇

◇発刊・昭和四十九年七月七日
◇就輯・昭和四十一年四月五日
◇編・懐古裂研究会・きょう墨染峠・等泉寺山内・深草庵
◇纂・吉本嘉門 ◇冊装・小糸大典

◇

頒布処 株式会社 京都書院
京都市中京区河原町四条上ル
電話(〇七五)二二一―一〇六二番
【頒価 二萬二阡圓也】

22 Dyed and Woven cotton Swatches : Pp. 50 : with cloth samples : 2500.00.
Japan.